

# 令和2年度有責事故件数・損害額の達成状況及び令和3年度抑止目標

	有責事故件数	事故損害額	事故内訳							チェック (何が不十分だったか)	アクション (改善すべきこと)	3年度 有責事故 抑止目標	3年度 損害額 抑止目標
			バック	接触衝突	追突	脱輪	人・自転車	その他					
1課	本年	13	1,053,402	4	7	0	0	1	1	ゆとりと注意力の無さが原因	焦らずゆとりを持って 安全確認の再徹底	8	600,000
	昨年	15	874,033	5	7	0	0	1	2				
	差	▲ 2	179,369	▲ 1	0	0	0	0	▲ 1				
2課	本年	7	128,763	3	3	0	0	0	1	バック事故の原因は確認不足	バックモニターの活用と後方一回りの 確認の実施	8	600,000
	昨年	5	123,470	3	2	0	0	0	0				
	差	2	5,293	0	1	0	0	0	1				
3課	本年	11	767,568	4	5	0	1	0	1	大半がバックと接触事故 後方確認不足と周囲の確認不足が原因	極力バックはしない 慎重に急な動作はしない 緊張感を持って運転する	8	600,000
	昨年	13	495,606	6	4	1	0	1	1				
	差	▲ 2	271,962	▲ 2	1	▲ 1	1	▲ 1	0				
4課	本年	14	1,764,818	3	9	0	0	0	2	・後方・左側等、死角に対する確認 不足 ・安全意識の欠如	サイドミラー・バックモニター等を 活用し安全確認。場合によっては下 車確認。	8	600,000
	昨年	18	702,586	6	11	0	0	1	0				
	差	▲ 4	1,062,232	▲ 3	▲ 2	0	0	▲ 1	2				
5課	本年	7	742,496	5	0	0	1	0	1	後方の障害物への注意不足と 確認不足	バック時はバックモニター・セン サーに頼らず、少しでも不安を感じ たら下車して確認。	8	600,000
	昨年	10	491,146	3	5	1	1	0	0				
	差	▲ 3	251,350	2	▲ 5	▲ 1	0	0	1				
6課	本年	17	1,452,032	5	9	1	0	0	2	気の緩み・あせり 注意力の低下 バック時の後方確認不足	・焦らず・急がずゆとりを持って ・不安な後退は、下車して確認 ・万全の体調作り	8	600,000
	昨年	14	3,145,105	2	10	1	0	1	0				
	差	3	▲ 1,693,073	3	▲ 1	0	0	▲ 1	2				
7課	本年	13	1,322,700	3	8	0	1	0	1	・気の緩み ・確認不足	安心、安全で周囲に気を配りましょ う	8	600,000
	昨年	15	1,170,889	5	7	1	0	0	2				
	差	▲ 2	151,811	▲ 2	1	▲ 1	1	0	▲ 1				
8課	本年	19	1,499,827	3	14	0	0	1	1	・注意力不足 ・確認不足 ・だろろ運転	急がず、慌てず、防衛意識と安全確 認	13	800,000
	昨年	32	3,055,433	6	21	0	3	0	2				
	差	▲ 13	▲ 1,555,606	▲ 3	▲ 7	0	▲ 3	1	▲ 1				
9課	本年	5	316,949	3	1	0	0	0	1	・周囲の確認不足	周囲の確認を確実に	5	300,000
	昨年	2	51,278	1	0	1	0	0	0				
	差	3	265,671	2	1	▲ 1	0	0	1				
その他	本年	2	54,171	1	0	0	0	0	1	荷卸しによる駐車時の確認不十分	配送ルート内の危険箇所、渋滞場所 を把握し、余裕をもって安全運行を 心がける	0	0
	昨年	1	57,029	0	1	0	0	0	0				
	差	1	▲ 2,858	1	▲ 1	0	0	0	1				
全体		108	9,102,726	34	56	1	3	2	12			74	5,300,000
昨年 実績		125	10,166,575	37	68	5	4	4	7				
対前年		▲ 17	▲ 1,063,849	▲ 3	▲ 12	▲ 4	▲ 1	▲ 2	5				